

つきがた C・S 通信

令和5年度 第1回月潟小中合同学校運営協議会 報告

令和5年5月15日、月潟小学校 ホールにて今年度第1回小中合同学校運営協議会が開催されました。昨年度の教育目標に対する成果や課題をもとに、小中各校の今年度の教育方針の説明、地域教育コーディネーターより、パートナーシップ事業の実施計画の報告がありました。その後のグループ協議では、それぞれの立場からの意見交換が行われました。



月潟小学校ホールにて



【 次第 】

- 1、開会のあいさつ・・・月潟小学校 校長 寺田 武文
- 2、自己紹介
- 3、協議
 - (1) 会長・副会長の承認
 - (2) 今年度の運営方針について
月潟中学校 校長 小竹 智
 - (3) 教育ビジョンの説明
中学校・・・校長 小竹 智
小学校・・・校長 寺田 武文
 - (4) 今年度のパートナーシップ事業推進会議について
地域教育コーディネーター 大関 五月
 - (5) グループ協議
「子供は地域で何を学ぶのか」
「月潟の子どもにどう育てほしいのか」
- 4、閉会のあいさつ



《月潟小学校教育ビジョン》

月潟小学校では、「知」「徳」「体」の3つの柱とそれを支える特別支援教育について、以下のとおり重点目標並びに達成基準となる「指標」(○印)を設定しました。指標の達成状況については、中間評価、年度末評価で保護者の皆様にお伝えしていきます。

1 「主体的に学ぶ子ども」の育成

見通しをもって追及し、問題解決する子どもの育成

- 「授業で、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」児童の割合を85%以上にする。
- 「自分の考えややり方を友達に伝えることができる」児童を85%以上にする。

2 「助け合う子ども」の育成

自主的・実践的な集団活動を通して、互いを認め合い、高め合う児童の育成

- 「やっていることを友達に認められてうれしいと感じることがある」児童の割合を90%以上にする。
- 学級活動・児童会活動・学校行事で児童の自治的な「話し合い」とお互いのよさを認め合う「振り返り」を前期・後期で3回ずつ実施する。

3 「健やかな子ども」の育成

心身の健康の保持増進のために自ら望ましい行動を選択できる児童の育成

○ソフトボール投げにおける今年度の自分のスコアが、昨年度のスコアを上回っている児童を80%以上にする。

○児童アンケートにおいて「メディアの使用が2時間以内」の児童を70%以上にする。

4 多様な学びを保障する特別支援教育の推進

すべての児童にとって学びやすい学習の基礎的環境整備を進める。

○学習の基礎的環境整備を意識した授業スタイルについて職員の肯定的評価を80%以上にする。

○インクルーシブ教育の理念を児童、保護者に伝える機会を年2回以上もつ。



《月潟中学校 学校運営基方針》

がんばる生徒の良さをさらに伸ばしていくために、今年度の基本方針は積極性と協調性を育む教育活動の推進と決めました。

一人一人の生徒が自分に自信をもち、月潟で学ぶ誇りを感じ、積極的に他者と協力・協調して、よりよいものを目指して欲しいという願いを込めています。

この方針の実現に向け、次の取り組みを行います。

- ① わかる・できる授業を目指します。
- ② 家庭学習の習慣化、充実を図ります。
- ③ 互いに賞賛しあえる(賞賛の連鎖)をできるようにします。
- ④ 教師によるほめる声かけを積極的に行います。
- ⑤ 全校表彰を継続します。
- ⑥ 生徒会活動や学校行事で、協力する大切さや協調する楽しさを感じられるようにします。
- ⑦ 地域と関係を深める防災学習を行います。
- ⑧ 自分からあいさつできることを目指します。

⑨ 地域の一員として地域行事にかかわることを推進します。

⑩ 生徒のがんばりを広報するため、学校だよりの発行、学校ホームページの更新、学校ブログへの記事の掲載を頻繁に行います。

このほかにも、さまざまな取り組みを行って参ります。皆様方のご支援ご協力をいただけますようお願いいたします。

《グループ協議》

○子どもは地域で何を学ぶのか

- ・地域の行事に積極的に参加することで、人間性が培われる。
- ・美化活動や祭りなど、直接地域の方々との活動から、学校では学べないことを吸収する。
- ・月潟は住みよいところ。米、くだもの、桜など、自分の住んでいる地域の良さを学ぶ。
- ・地域の日常や産業を学んでほしい。(学ぶ場を作る)

○月潟の子供にどう育ててほしいか

- ・地元月潟を元気にするために、自分で動き出せる、周りの人を巻き込んで、勢いをつける、そんな仕掛けができる人。
- ・(大人になって)そとに出て、祭りなど地域行事の時には地元に戻ってきてほしい。
- ・メディア、情報モラル、不審者等、現代の課題に対して対応できる人。
- ・失敗から学ぶことも多い、失敗を恐れず、失敗をお互いがフォローできる関係性づくりのできる人。
- ・ほどよい学校規模を生かし、心が丈夫な子の育成。
- ・生徒と関わりをもちたく、意識してあいさつをしていたら、あいさつを返してくれるようになった。そんな「意識」のできる地域の存在も大切だと思う。

